



令和2年8月3日

秋草学園高等学校 図書館

今日は期末考査の答案返却日。長い休校期間が明けて初めての定期考査ということで、みなさんいつも以上に緊張感を持って臨んだのではないかなと思います。頑張った成果を出せた人も思ったよりも点数が伸びなかった人もここで一息つきつつ、二学期に向けて夏休みも意欲的に学習していきましょう。

さて、図書館では今年の夏も先生方に「夏が好き!本が好き!!」と題し、おすすめ本をたくさん紹介していただきました。先生方がおすすめしてくれたのがどんな本なのか、紹介文を読んでいるだけでもおもしろさが伝わってきます。気になる本があったらどんどん読んでみてください。紹介していただいた本は、図書館にて展示中です。夏の長期貸出が始まっていますので、たくさん借りて、この夏は読書を楽しんでください。貸出冊数は5冊、返却日は8月27日(木)です。

関口校長先生のおすすめは…

①312-キ 『世界地図を読み直す 協力と均衡の地政学』 北岡 伸一 || 著 新潮社

現在、多くの大学で国際関係の学部・学科が設置されていますが、私が約40年前に専攻した国際関係論はマイナーな学問分野でした。大学を卒業して教員になってからも国際政治や国際経済の動向に興味関心を持ち今日に至っています。この本はJICA(国際協力機構)理事長である著者がアメリカ、中国、ロシアといった大国の周辺国から国際秩序を見直し著した、たいへん興味深い内容が満載です。国際化の時代といわれながら、日々のニュースも大国中心、あるいは日米、日中、日韓といった二国間関係で論じられることが多い中、大国の周辺国から国際関係を論じたこの本を読むと「世界」の見方が変わると思います。

②B304-イ 『池上彰の未来を拓く君たちへ』 池上 彰 || 著 日本経済新聞出版社

この本は、ジャーナリストで東京工業大学特命教授の著者が、日本経済新聞朝刊に連載したコラムをまとめたものです。働くこと・学ぶこと・生きること、正しい情報を知り・考え・判断すること、未来を見通す力を養うこと等、自分の体験に基づき、また、大学生や高校生との対話を通じて若い世代に伝えたいことが記されています。読書の大切さについても述べています。皆さんが将来について考える際のヒントになると思います。

中村教頭先生のおすすめは…

①B953-カ 『ペスト』 アルベール・カミュ || 著 新潮社

フランツ・カフカの『変身』とともに代表的な不条理文学。カフカの『変身』は不条理が個人を襲ったことを描いたが、カミュの『ペスト』は不条理が集団を襲ったことを描いた。この『ペスト』で描かれる不条理とは伝染病のペストである。

2019年コロナウイルス感染症による社会・経済的影響の一つとして、カミュの「ペスト」に対する関心が高まり、イタリア、フランス、イギリスなどでベストセラーになったということである。日本でも小説の設定がコロナ禍と酷似しているとして話題になり、2020年4月には1969年から刊行されている文庫版の発行部数が累計100万部を超えたとのこと。

私も高校生のとき読みました。

どうぞお読みください。

②B493-イ 『感染症の世界史』 石 弘之 || 著 KADOKAWA

2年前に出版された、大学の先生が書いた本です。今一番売れている本でもあります。世界史・日本史や地理・保健体育・生物といった教科科目の勉強ができてしまいます。しかし、刺激が強い部分もありますので要注意。

内容は、人が病氣と必死に戦う歴史と対峙する感染症の正体を探るものです。医療関係に進もうとしている生徒諸君、いや新型コロナウイルスの消息の糸口が見えていない今だからこそ、全生徒の皆さん、人類が感染症と戦ってきた歴史を紐解こうじゃないか。

浅見先生のおすすめは…

①209.4-ナ 『ビザンツ帝国』 中谷 功治 || 著 中央公論新社

ローマ帝国が東西ローマ帝国に分裂し、その継承国家としてビザンツ帝国が繁栄する。そこから、エルサレム(キリスト教、ユダヤ教、イスラム教の聖地)を占領して滅びていく姿を学んでください。

②B914.6-タ 『大阪弁おもしろ草子』 田辺 聖子 || 著 中央公論新社

イケズ、ほちほちやな・・・他 大阪弁って面白くないですか?

稲本先生のおすすめは…

①159-ジ 『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』 Jam || 著 サンクチュアリ出版

タイトルにひかれて思わず手にとり一気読み。ネガティブまっしぐらな人におすすめ。「他人なんてそんなもんだよね」とちょっとだけ思わせてくれる一冊です。

②B933-ク 『Xの悲劇』『Yの悲劇』 エラリー・クイーン || 著 角川書店

中学生のころ、大人ぶって読んでみたものの、全く意味不明。休校中、ふと思い立って、読み返してみました。読み始めの緊張感が最後まで続く名作だと思います。特に、『相棒』シリーズが好きな人にはおすすめです。

伊久美先生のおすすめは…

①913.6-ヨ 『TUGUMI』 吉本 ばなな || 著 中央公論社

10年ぶりに再読して泣きました。つぐみにもまりあにもあこがれます。

②913.6-オ 『蜜蜂と遠雷』 恩田 陸 || 著 幻冬舎

一気読みでした。音楽が好きな人に読んでみてほしいです。



③B913.6-シ 『キネマ探偵カレイドミステリー』 斜線堂 有紀 || 著 KADOKAWA

全3巻。映画が好きな人にぜひ読んでほしいです。

大竹先生のおすすめは…

141-ス 『13 歳からのアート思考』 末永 幸歩 || 著 ダイヤモンド社

私も含め、みなさんも日々の生活の中で「正解」があるものを基準にしているませんか？知識として教えらえたことを理解することは、もちろん大切なことですよね。

でも、「新しい見方」そこから生まれる「新しい考え方」これができる人って…

どうでしょうか？！「自分の見方」「自分の考え方」を持つことができる人。こんな人に私はなりたい！みなさんにも是非目指してほしい…！

とても読みやすい本ですが、活字に抵抗がある人は、「中田敦彦の YouTube 大学」で芸人のあっちゃんの方が分かりやすく、面白く紹介してくれています。そちらもチェックしてみてください！

鹿島先生のおすすめは…

372-ブ 『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 プレイティみかこ || 著 新潮社

世界で様々な出来事が起きている今だからこそ自分の価値観を見直せる本です。

上村実紅先生のおすすめは…

913.6-イ 『十二人の手紙』 井上 ひさし || 著 中央公論新社

「井上ひさし」という方は、名前は聞いたことがあるのではないのでしょうか…？丸い眼鏡がトレードマークの作家さんですが、実はこんなにヒヤっとする物語を書くんですね。本屋さんで、表紙が気に入って買った一冊でしたが、読めば読むほど、ページをめくる手が早まってしまう作品でした。

短編集なのですが、なんと物語はすべて登場人物の書いた手紙で進んでいきます。文体は、昭和時代の堅い話し言葉ですが、内容は今の時代の人でも共感できる、人間ドラマが繰り広げられていきます。そして最後話ではなんと…！本が好きの人向けだと思いますが、夏休みに少し夜更かしをして読んでみてはいかがでしょうか？

菅先生のおすすめは…

913.6-ハ 『20 CONTACTS』 原田 マハ || 著 幻冬舎

あの人が今の時代を生きていたら、こんな話をしてみたかった、私はときどきそんなことを思います。

今は亡き20人のアーティスト。作品でしか知らなかったアーティストたちの人柄を覗き見ているようでワクワクしますよ。

京極先生のおすすめは…

913.6-ム 『海辺のカフカ』上・下 村上 春樹 || 著 新潮社

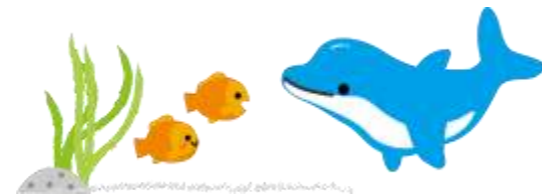
東京に住む中学3年生の僕が家出を決心し、その先で様々な人と巡り会っていく。家出をしてたどり着いた地で、とある図書館に通うようになり…

村上春樹さんの作品は独特な世界観があり、読解が難しいところも多いですが、読了後に残る余韻をととても楽しむことができます。

表紙がシンプルで、「これを電車で読んでいる自分、カッコイイんじゃないか!？」という不純な動機で読み始めた小説だったのですが、上下巻ともにあっという間に読み終わってしまいました。

自分もそろそろ家を出たいと思う今日この頃です。

(2?歳 実家住み独身男性 心の叫び)



栗山先生のおすすめは…

913.6-イ 『逆ソクラテス』 伊坂 幸太郎 || 著 集英社

「自分自身が無知であることを知っている人間は無知であることを知らない人間より賢い」

そんなソクラテスの言葉を考えさせられる5つのストーリーで構成されています。すべてのストーリーの主役は小学生。高校生のみなさんにとっては近い過去の小学校時代。この本を読んで、そんな小学校時代の思い出に浸ってみるのもアリだと思います!!私は、この作家さんの本は爽快感と軽いショックをもらえるので、とっても大好きです。

小林先生のおすすめは…

913.6-イ 『探偵が早すぎる』 井上 真偽 || 著 講談社

主人公は女子高生で、父の遺産を5兆円相続し、親族一同に命を狙われてしまう。主人公のメイドは探偵を雇うことにした。その探偵が主人公に振りかかる事件を“未然”に見抜き、同じ方法で犯人に返す“トリック返し”をする。主人公の知らぬ間に解決していく事件と、手がかりの見つけ方が斬新な新感覚ミステリー小説です。

佐久本先生のおすすめは…

①829.1-シ 『韓国語単語集 K-POP 動画 SNSこれが知りたかった!』 穴戸 奈美 || 著 KADOKAWA

本校でもK-POPや韓国ドラマに興味がある人が多い気がします。大好きな歌手や俳優さんのSNSをフォローしている人もいますよね。大好きな人の言葉を翻訳機にかけても、SNS等で頻繁に使われている造語、新造語、流行語、俗語等は正しく訳されません。この本は今年3月に出た本で、K-POP 動画 SNS好きには必須の本です!私は持ち歩きたいので電子書籍で買いました。

②829.1-マ 『韓国語の発音変化完全マスター』 前田 真彦 || 著 HANA

韓国語学習者向け。韓国語の勉強を始めると、最初誰しも「発音ルール」に悩みつまずくはず。初心者にもわかりやすいし、繰り返し聞いて見て確認しながら学習できる本なので、プラスアルファの勉強におすすめです!

迫先生のおすすめは…

913.6-ヌ 『影裏』 沼田 真佑 || 著 文藝春秋

この本のAmazonのレビューが若干荒れてますが(「漢字が難しい!」とかいって星一つにするのはどうなのか)、私としてはここ数年読んだ中でもかなりのヒットだったのでご紹介します。

あらすじは…ここに書いてもあまりぱっとはしません。前半は特に。(冒頭にいたっては男二人が川でヤマメ釣ってます。渋すぎる)それでも読み始めたら、最後までなんだかずっと面白い。一見淡々とした主人公の性格が少しずつわかってくる感じとか、送らずに消すメールとか、夜釣りの空気感とか。ミステリーのような「筋」が命の読みものが好きな人にはピンときづらいかもしれませんが、言ってみれば「筋」が「小説」になるために必要なものが、『影裏』にはたくさん詰まっているのだと思う。

漢字が読めなければ辞書でもアプリでも使えばよろしい。サクッと読める長さなので、ぜひ一度手に取ってみてください。



鈴木信滉先生のおすすめは…

913.6-キ 『「手紙屋」蛍雪編 ～私の受験勉強を変えた十通の手紙』 喜多川 泰 || 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン

ただでさえ先が見えないご時世。受験勉強を控える3年生は特に不安なはず。その不安をやる気に変えてくれる一冊。図書館で借りられていたら私のところに来てお声掛けください。

関口先生のおすすめは…

913.6-カ 『消えていく日に』 加藤 千恵 || 著 徳間書店

人生が動き出す。そんな日は、往々にして鮮やかな色を引き連れてやってくる。でも、鮮やかな色を持たず、淡い色の日でも人生が動き出すことがある。淡い日々を情景を鮮やかな角度から切り取った一冊。

高橋優美花先生のおすすめは…

913.6-ダ 『だから見るなといったのに』 恩田 陸 || 他著 講談社

書名から連想されるのは、「鶴の恩返し」です。ぴったり閉じられた襖。少しだけなら大丈夫だろうと好奇心に唆されてみたが最後、「だから見るなといったのに」と人間に変身した鶴は飛び去るのでした。「見るな触るな近寄るな」は物語世界の重要な約束事ですから、守るに越したことはありません。(ただ、物語が成立しないので、登場人物は規約を破らなきゃいけない…)

当作品は、「夜のピクニック」の恩田陸他9名の作家によるホラー・アンソロジーです。1番初めに収録されている「あまりりす」を持にお薦めします。

ボイスレコーダーに、とある食事会で交わされた数人の声が収録されている。盛り上がる会場、聞いているだけでも酒に酔い顔を赤らめる男性陣の姿が想像される。会話に度々挙げられる「あまりりす」という言葉。「あまりりすって何ですか？お花ですか？」「馬鹿かよ。あまりりすはあまりりすだよ」「その名を口に出すなよ、おい」…。

「見るな触るな近寄るな、聞くな語るなそれ読むな」と言われたら、人間誰でも、気になってやってみたくありませんか。その後どうなるかは、わかっているでしょう。

遠山先生のおすすめは…

159-イ 『14歳の君へ どう考えどう生きるか』 池田 晶子 || 著 毎日新聞社

言葉について、お金について、幸福について……。大人といえども簡単に答えられないものに、筆者が哲学的視点から回答してくれます。道徳的な教えについても、きちんと自分で考えていくことの大切さに気づかされます。あたりまえと思われていることに対しても、自分で深く掘り下げて考えるきっかけを与えてくれる本です。

哲学だなんて難しく感じるかもしれませんが、この本にとっつきにくさはありません。夏の夜、この本を開いてみませんか。

本多先生のおすすめは…

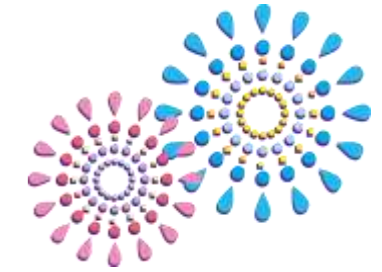
913.6-イ 『願いながら、祈りながら』 乾 ルカ || 著 徳間書店

北海道の小さな小さな中学の分校の物語です。全校生徒はたったの5人。3年生は女子1人。1年生は4人で、3人が男子で女子は1人。そこに新任の若い男の先生が働きます。それぞれの立場で物語がすすみます。最後に題名の意味がわかります。読みやすい文体です。

守谷先生のおすすめは…

379-ヤ 『お母さんは息子推し』 やまもと りえ || 著 祥伝社

ひよくん(4才) あっくん(1才) 2人の息子さんのかわいすぎる成長記録。ひよくんの語彙力、あっくんの行動力にフッと癒されます。



三ツ木先生のおすすめは…

933-グ 『さよならを待つふたりのために』 ジョン・グリーン || 作 岩波書店

映画「きっと、星のせいじゃない」The Fault in Our Stars (英語タイトル) を観て、すぐに原作本を読みたくなり、洋書を読んでいます。(現在進行中)

平易な英語なので、映画を観るか日本語版を読んでから、洋書を読むとストーリーが頭の中で流れ、すらすらと読み進めることができるはず。

ラブストーリー・余命宣告をうけた話ですが、単にお涙頂戴の内容ではなく、若い二人が発する言葉一つ一つに引き寄せられる作品です。こんなふうに互いを思いやり、生き抜くことができれば、その先の「死」も決して怖いものではないな、と感じます。原作本では、映画では触れられていない部分もたくさんあり、より楽しむことができます。映像では、オーガスタス役のアンセル・エルゴートのキュートな笑顔に夢中になるはず。何度も観ては、そのたびに号泣してしまいます。

本から入るもよし、映画を観てからでもよし、この夏休みにぜひ楽しんでください。

薬師先生のおすすめは…

B210.1-ス 『京大芸人式日本史』 菅 広文 || 著 幻冬舎

日本史は物語のように読めば絶対に忘れない ——ロザン 宇治原との謳い文句。

読んでみると、なるほど。確かに、流れがわかりやすい。苦手意識のある人、まずはどんなものか、読んでみて下さい。



結城先生のおすすめは…

914.6-ノ 『山で見た星』 野尻 泡影 || 著 筑摩書房

B913.6-マ 『夏の流れ』 丸山 健二 || 著 講談社

三つ星というとミシュランを思い浮かべますが、元々は「オリオンのベルト」と呼ばれるオリオン座の三つの星のこと。「冥王星」和訳命名者の天文民族学者・野尻泡影の「三つ星の頃」は、オリオン座を眺める病弱な少年の悲しい思い出を清麗に描いた一篇。本書には小説と随筆が収録され、他の作品でも星に限らず、月光に輝く砂浜(「月明り」)や、白々と明けゆく山並みの美しい姿(「海恋い」)などが、すばらしい描写力で素朴ながら上品に描かれています。

八月まで明けないらしい長い梅雨の只中では、澄んだ星空や(本当はうだるような暑さでも)ハイビスカスとビーチの爽やかな夏のイメージが恋しくなります。丸山健二の「夏の流れ」は、照りつける太陽ときらめく水面の夏、岩場の川釣りの涼やかさ、砂まみれの浜辺の明るさを感じることが出来ます。しかし淡々と描かれるのは、にわか雨の雷光のような生と死です。

湯本先生のおすすめは…

①B19-I 『本当の戦争の話をしよう』 伊勢崎 賢治 || 著 朝日出版社

結構なボリュームがあるので、ちょっとしり込みしてしまうかもしれませんが…。著者は、世界の紛争地へ行き、内戦を終らせ、平和を取り戻す仕事を体験され、現在は東京外国語大学の教授をされています。平和とは？テロリストとは？著者からはさまざまな問いが投げかけられますが、対話の相手は皆さんと同じ高校生です。日本では実際の戦争を知る人は少なくなっていますが、戦争、紛争は絶えることがありません。自分たちの常識は世界の常識ではないということを改めて考えさせられる本です。

②B913.6-オ 『錆びた太陽』 恩田 陸 || 著 朝日新聞出版

現実離れした近未来の話ですが、登場人物（人物…？）のキャラが濃く、単純に面白かったです。伏線の回収がほとんどなくて「あれはどういうことだったんだろう…」と読み終わったあとも気になるところがたくさんあります。現実にはあり得ない話ですが、考えさせられるところはたくさんあります。単純に面白い小説としても読めるし、未来の在り方や、人はどこまで人なのかなど、深いところまで考えることもできる一冊です。

③B913.6-ヤ 『沈まぬ太陽 3』 山崎 豊子 || 著 新潮社

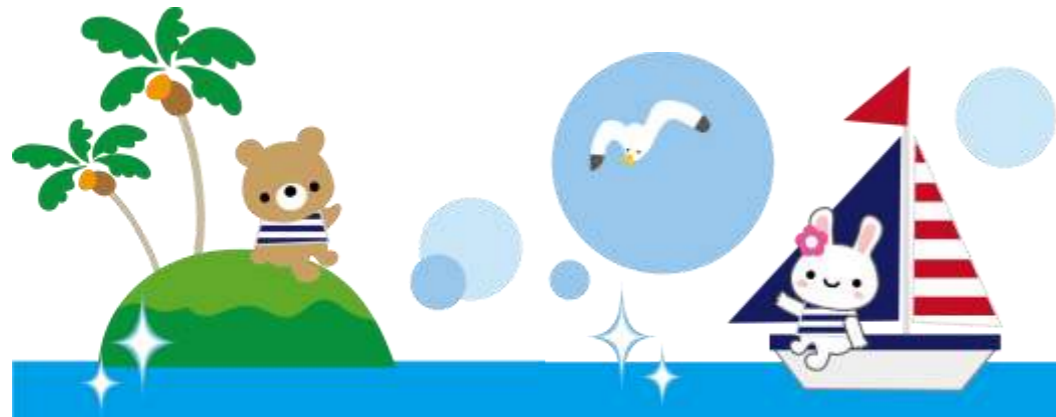
本当は5冊あるのですが、全部読むとかなりのボリュームなので…。(3)だけでいいので是非読んでみてください。(3)は皆さんが生まれる前、1985年に起きた日航機墜落事故一群馬島の御楽鷹山にジャンボ機が墜落、524人の搭乗者のうち520人が亡くなった大事故をもとにしたものです。毎年8月12日のニュースで御楽鷹山に登る遺族の映像が報じられますが、これを読めば、今までとは違った感覚でそのニュースに触れることができると思います。

④913.6-ミ 『風が強く吹いている』 三浦 しをん || 著 新潮社

初めて読んだ時からもう何年も経過していますが、いまだに読み返したくなる一冊です。これに匹敵する本はあれど、これを超えるスポーツ小説にはまだ出会っていません。思う存分スポーツに取り組むことがなかなか難しい状況ですが、スポーツ好きの人にも、そうでない人にも、是非読んでほしいおすすめ本です。

⑤B913.6-ヨ 『熊嵐』 吉村 昭 || 著 新潮社

昨年、加藤先生がお勧めされていた『熊嵐』。インパクトのある表紙につられて読んでみましたが、一気に読んでしまいました。私たちは世界の中心は人間であるかのように思っている節がありますが、人間もまた、この世界に暮らすさまざまな動物の一つに過ぎないのだと思い知らされるような作品です。そして恐ろしいことに、これは実際にあった事件に基づいて書かれたものです。



鈴木司書のおすすめは…

① 913.6-ハ 『少年と犬』 馳星周 || 著 文藝春秋

飼い犬と触れ合うと、人間と犬の双方が幸せになれるそうです。麻布大学の研究論文がアメリカのサイエンス誌に掲載され世界で話題になりました。幸せホルモンともいわれるオキシトシンが分泌されるからだそうです。

題名にある少年と犬の取り合わせは、無邪気に転げまわって遊ぶ姿が想像できて、幸せなおはなしの予感がします。しかし、その期待は良い意味で裏切られます。ノワール小説の騎手ともいわれる馳さんだからこそ、闇にいつそう輝く光の力強さ、無邪気からかけ離れて始まる物語にきっと最初は戸惑うでしょう。けれど最後にすべてが繋がった時、多聞という犬との出会いを特別な体験に感じられるはず。この作品で7回目の直木賞ノミネート、そして受賞。愛犬家の馳さんは会見で「犬を出す小説はすると思います。でも書きたかったんです」と頭を下げていました。猫派の私でも、犬と暮らすことが羨ましくなりました。

②913.6-ノ 『タイタン』 野崎 まど || 著 講談社

実生活ではまだまだ思うように出歩くことはできませんが、本の中なら自由に冒険の旅に出かけられます。クジラのお腹に飲み込まれて旅したのはピノキオ、寝室がしつらえられた箱ごと巨大な鳥によって運ばれたのはガリバー。そして人類の暮らしを支えるAI・コイオスと内匠成果の想定外なスタイルの旅にわくわくできるのが『タイタン』です。

タイタンとは自律的に人間の代わりに仕事をし、サポートするAIや機械の総称です。人間は仕事から解放されごく少数の就業者しかいません。心理学博士の内匠は、作業量の減少した汎用AIコイオスのカウンセリングを請け負います。自我に目覚めたばかりのAIと旅をしながら重ねる対話。自我とは、仕事とはなにか。タイタンによって一見平和に暮らせる世界はユートピアなのかデストピアなのか、仕事の意義とはなんなのか。まるで戦闘ロボットアニメーションのような派手さを楽しみながら、働くことの意義についても考えさせられる不思議な物語です。空間と時間の冒険を、この本で経験してみてください。

今井司書のおすすめは…

①929.1-チ 『フィフティ・ピープル』 チョン・セラノ || 著 亜紀書房

自粛生活で人と接する機会が減りました。仕方ないこととはいえ、寂しいものです。そんな時に手に取ったこの本で私は50人の主人公と出会いました。一人ひとりの物語はほんの数ページでしかありませんが、その短い中から主人公たちがどんな環境で、どんな思いを抱えて生きているのかか鮮明に伝わってきます。色々な人生があり、色々なことが起こります。予期せぬ出来事に戸惑うことも悲しむこともあるけれど、どの物語からも光を感じられるのがこの本のいいところです。読み終わりには彼らの友として「よかったね」「これからも幸せでいてね」と言葉を送りたくなります。

追伸。あとがきまで読むと、ある秘話を知ることができます。最後まで楽しんで読んでください。

②B913.6-シ-1 『未明の家』 篠田 真由美 || 著 講談社

「建築探偵桜井京介の事件簿」の名でシリーズになっているミステリー小説です。これはその記念すべき第1巻。静岡県伊豆にあるスペイン風の別荘『黎明荘』を舞台に不可解な事件が起こります。

一瞬、手に取るのをためらう分厚さかもしれませんが、めげずに本を開いてほしいです。事件の謎解きをしながら読むのも楽しいし、建築がモチーフになって書かれているので建物の細部にわたる描写も興味深いし、物語の中で見え隠れする主人公たちの心の闇が巻を重ねるごとに明らかになっていくのも見どころだし、どこに注目して読んでもおもしろいです。一度ハマると、「逆にこのくらい分厚くないとこのシリーズは読みごたえがない！」と感じてしまうはず。